



地域づくりの土台作りという視点

11月9日(木)に地域と学校の連携・協働研修会を開催しました。学校運営協議会の委員や地域学校協働活動推進員、公民館主事、コミュニティセンター事務局職員、大学生、社会教育委員など、52名の参加をいただきました。

講師は「裾野市東地区おやじの会 何にもしない合宿実行委員長」小田圭介氏です。「地域づくりの土台作りという視点」というテーマでお話いただきました。

小田氏は「何にもしない合宿」をはじめ、様々な活動を精力的に行っています。「自分のやりたいことと、地域に必要なことが一致している」のだそうです。

魅力的な実践事例を聞いた参加者の皆様から、このような感想をいただきました。

- つながりをつくるのが本当に大切だと思いました。
- 「これをしなければならない」のではなく、目的を考えればおのずと行動に出られると思いました。
- 「将来の良き隣人を育てる」「知り合うことの大切さ」など、これからのまちづくりを考える上で不可欠な視点をいただきました。
- 「地域の子どもを地域が育てる」ということを真正面から実践されており、これが広まれば日本が変わるように思いました。
- コミセン事業にも生かしていけるのではないかと思います。中学生のボランティアと一緒に事業を行うことができないものかと思いました。
- 子どもたちに「僕、私の住んでいる町はこんなにいいところなんだ!」と思ってもらいたいです。コミセンで何ができるのか、改めて考えたいと思いました。

現在、多くの地域で「人材不足」が課題となっているようです。「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」においても重要な課題の一つです。小田氏から「担い手不足はつながりの不足が要因ではないだろうか」という話がありました。もしそうだとすれば、「地域住民のネットワーク」を構築することがますます重要になります。

また、「中学生は地域から心が離れていないか」という話題もありました。中学時代は「地域つなぎにおいて最も大切な3年間」だと小田氏は言います。そのためには、地域住民が地域の中に中学生の居場所をつくること、地域の中で中学生が活躍できる場をつくり、大人と中学生が心をつなぐことが必要です。

これらの課題は「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」によって解決することが可能であると考えます。地域においては「学校を核とした地域づくり」が、今後さらに重要性を増していこうと思っています。

「読み聞かせ」で生まれる、学校と地域への効果とは

第七小学校では保護者等のボランティアによる読み聞かせを行っていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で活動を行うことができなくなったばかりか、新たなメンバーの募集ができなくなり、継続が困難な状況になってしまいました。

今年5月に行われた学校運営協議会で「ボランティアによる読み聞かせ」が話題になりました。読み聞かせの価値や効果について話し合わせ、「学校と地域の共通の課題」として委員全員で共有し、保護者や地域住民の参画によって再び実施されることになりました。

6月には学校運営協議会会長と校長先生の連名で読み聞かせボランティアの募集を行いました。現保護者や元保護者、七小を卒業した大学生からの応募があり、メンバーの顔合わせを経て、9月25日にスタートしました。今後は毎月1回の開催を計画しています。

読み聞かせ終了後は図書室に集まり、読んだ本を紹介したり、感想を話したりとボランティア同士の交流を行っています。また、SNSを活用して情報の共有も行っています。ボランティアの参加日程の調整などは、地域学校協働活動推進員が行っています。

〈教職員の方々より〉

- ・読み聞かせボランティアの活動復活を一番待ち望んでいたのは、子ども達でした。友達と一緒にハラハラしたり、声をあげて笑ったり、読み聞かせの雰囲気には浸っていました。子ども達自らが聞く姿勢を高めているように感じます。
- ・子どもと一緒に教職員も物語の世界を楽しむことができました。また、聞き入っている子どもの様子から、新しい一面を見いだすことができました。
- ・回を重ねる毎に、ボランティアの方々の「工夫」や「技」といったものが高まっています。様々な考えをまとめたり、練習したり…。その結果が、15分間に現れており、子ども達の充実した時間に繋がっていることを感じます。
- ・読み聞かせのある日の朝は、子ども達が楽しみに待っていることから、心にゆとりが持てます。
- ・「人の熱量」を感じることでできる機会の大切さを再認識しています。

〈ボランティアの方より〉

- ・複数学年で読み聞かせをするので、子どもの成長が見える。
- ・子どもたちの反応が嬉しい。自分の楽しみになっている。
- ・子どもの気持ちがわかるようになった。
- ・人前で話すことは苦手だが、子どもの前で読み聞かせをすることは楽しい。
- ・子どもたちのエネルギーを感じて明るい気持ちになる。
- ・読み聞かせをするようになって、自分の子どもとの会話が増えた。
- ・心と心を通わせ合う機会になっている。
- ・本を読むのは自分の子どもが小さいとき以来。絵本の楽しさを自分も感じている。